

# すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2019.8

211号

■特集／三重の自然を体感！満喫！

●いま、グループネット／伊勢おもてなしヘルパー ●みえを歩こう／伊賀市 子延～平松～富永



## 三重の自然を体感！満喫！

南北に長い三重県の西側に目を向けると、緩やかな稜線りょうせんを描く鈴鹿山脈、今なお秘境と呼ぶにふさわしい大杉谷、南には熊野の山並みが連続します。

一方、東側に視線を移せば、波穏やかな伊勢湾の南に、熊野灘の大海原が広がります。また、山々の頂いたさから幾筋もの清流が海へと向かう間には、森林・里山・田園風景などがあり、心を和ませてくれます。こうした変化に富んだ美しい三重の自然は、国内にとどまらず、海外からの訪問者をも惹きつけています。

今回は、地域の自然を活かして、さまざまな体験プランを提供している6グループを紹介します。思う存分、三重の自然を満喫してみてください。

\*各施設での体験・イベントに関しては、日時・予約方法・受け入れ人数・料金などがそれぞれに異なり、変更になる場合もありますので、必ず事前にご確認ください。

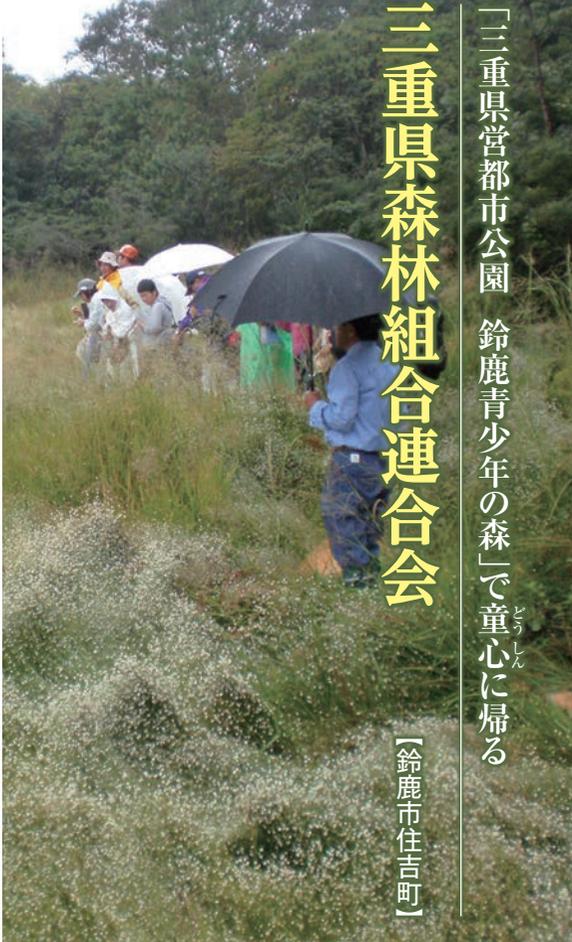
取材・文…中村真由美・中村元美  
末永薫

撮影……梅川紀彦・尾之内孝昭  
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

「三重県営都市公園 鈴鹿青少年の森」で童心に帰る

# 三重県森林組合連合会

【鈴鹿市住吉町】



※昨年実施された「秋の湿地帯の植物観察会」

鈴鹿市南西部、「鈴鹿サーキット」に隣接する「三重県営都市公園 鈴鹿青少年の森」の園内には、江戸時代に造成された道伯池などをめぐる遊歩道が整備されているほか、6歳以下の子どもが安



道伯池



複合遊具



「キャンプ場」内の炊事場

全に遊べる複合遊具や、6歳から12歳までの子どもが楽しめるアスレチック遊具に加えて、健康遊具などもあり、長い間、市民憩いの場として親しまれてきたのも頷けます。また、雨天でもBBQ

が可能な屋根付きの炊事場や、「鈴鹿サーキット」の「8時間耐久レース」や「F1グランプリレース」開催時にテント設営できる「キャンプ場」(要予約)も揃い、親子連れや友人同士などで存分に楽しめます。

「ここは、元々はアカマツが生い茂る森でしたと教えてくれるのは、同園所長の江藤次男さんと副所長の山本敏雅さん。お二人が所属する「三重県森林組合連合会」は、平成25(2013)年に指定管理者となって以来、自然をできる限り残しながら、公園利用者が快適に過ごせるように、枯れ松の伐採や、伐採跡地にヤマザクラや実の生る樹木の植栽を行っています。その結果、四季折々の花々が咲き競い、30種類もの野鳥の姿を見かけるようになったといえます。



山本 敏雅さん



江藤 次男さん

また、季節に応じて体験教室・イベントを企画し、いずれも好評を博しています。たとえば本年9月には「きこの観察会」、10月には「グラウンドゴルフ大会」、11月には「キャンプのつどい」親子で野外クッキング「グト」、12月には「迎春」寄せ植え講座」など。内容に応じて「三重自然誌の会」「三重県レクリエーション研究会」「三重県キャンプ協会」などと連携して実施します。来年2月には、「鈴鹿青少年センター」の「セーターフェスタ」と同時開催の「森の感謝祭」も予定されています。

お邪魔したこの日は、ご厚意で、毎年夏休み期間中に実施の「親子木工教室」を体験することに。挑戦したのは本立で、中央の板がスライドするという本格的なもの。少し難しそうですが、県の間伐材を利用した材料が必要な大きさにカットされており、所長がわかりやすく手順を説明してくれたため、スムーズに進みました。側板や背板に釘を打つ際には、いつしか夢中になり、童心に帰ってしまいました。



本立で作り体験



湿地帯での観察風景



トウカイコモウセンゴケ

続いて、普段は立ち入りを制限している湿地帯を案内してもらおうことに。普通の草むらのような場所ですが、足を少し踏み出すだけで、ずぶずぶと沈んでいきます。こうした湿地帯は県内でも珍しく、大変貴重な存在。そのため、「三重自然誌の会」の協力を得て、湿地帯の保全に努めています。この日は、山本さんに指導してもらいながら、赤く丸い葉が放射線状に伸びたトウカイコモウセンゴケ(モウセンゴケ科)を見学。小さな葉に生えた腺毛(せんもう)で虫を捕らえるのだと聞いて驚きます。観察会後には、「今しか見られない植物を細かく説明してください」などの

感想が寄せられるというのも納得です。なお、秋の観察会では、小さな白い花が星のように見えるシラタマホシクサ(ホシクサ科)などを見学できると伺いました。本年の「秋の湿地帯の植物観察会」は9月下旬ごろに開催予定です。一度、参加してみると、足元に、貴重で不思議な世界が広がっていることに気付くことでしょうか。

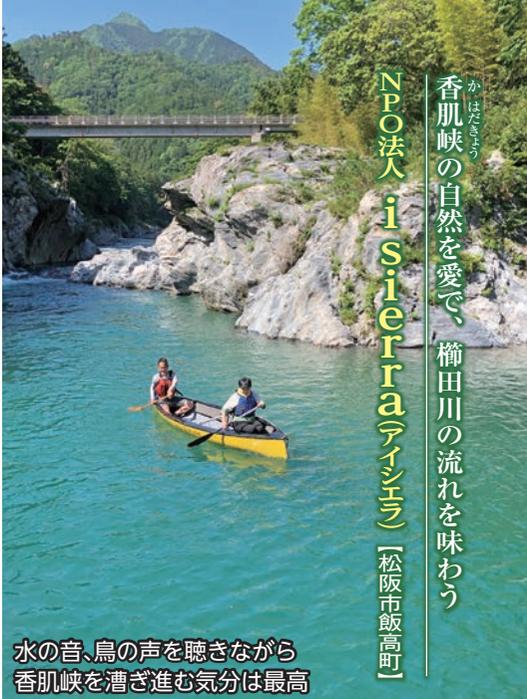
**注意**：原則として、観察会など以外は、湿地帯への立ち入りはできません。また、園内の植物の採取は、県都市公園条例で禁止され、違反すると罰則があります。

**お問い合わせ**  
三重県営都市公園 鈴鹿青少年の森  
TEL 059-1378-2946

※印の写真は取材先から提供していただきました

かほだきょう  
香肌峡の自然を愛で、櫛田川の流れを味わう

NPO法人「isiera(アイシエラ)」【松阪市飯高町】



水の音、鳥の声を聴きながら  
香肌峡を漕ぎ進む気分は最高

澄んだ青緑色、川底まで見えるような透明度の高い櫛田川流域の香肌峡。時に深く流れの速い瀬があり、適度な変化が面白い上中流部はカヌー遊びにピッタリ。木のパドルを巧みに操りながら「飯南、飯高のこの素晴らしい自然を感じて興味を持ってもらい、地域に関わる人が増えてほしい」と語るNPO法人「isiera(アイシエラ)」理事長の太田 覚さん。キラキラと水面の光を受けて輝くその笑顔が爽やかです。

太田さんは多気町出身の元三重県職

員。大学時代からサイクリング部に所属し国内を広く旅して走り、卒業後は一年以上も南米を旅するなどアウトドアの強者。20年ほど前に馬を飼える家に住みたいと、妻とともに飯高町に引っ越ししました。そして子育てしながらこの地域の人や自然の素晴らしさに触れるうち、

愛するこの土地で自ら企画する仕事をしたいと平成29(2017)年に退職。地域の有志らとともに「isiera(アイシエラ)」を立ち上げました。

「isiera(アイシエラ)」は松阪市飯高地域の住者や出身者が中心となり、飯高および飯南の自然を活かした地域づくりをめざし活動するNPO法人です。カヌーはじめトレッキングやサイクリングなど豊かな自然を活かした体験プログラムを中心に行っているほか、川遊びや焚き火などキャンプや自

然遊びのお手伝い、また暮らしの中に残っている昔ながらの知恵や工夫を体験する機会なども提供し、昨年末には都市部の親子が参加、田舎暮らし体験として餅つきやしめ縄づくりを楽しみました。

アウトドアが盛んになるこの季節、「自然遊びを通じて地域の行事や人と交流してほしい、そうすることで移住にも繋がり過疎の進むこの土地の魅力を存続させ次世代に手渡したい」と太田さんからは熱い地域愛がひしひしと伝わって来ました。



太田 覚さん



【珍布(めづらし)峠】をサイクリングする※

### お問い合わせ

NPO法人「isiera(アイシエラ)」  
TEL 080-3630-4396

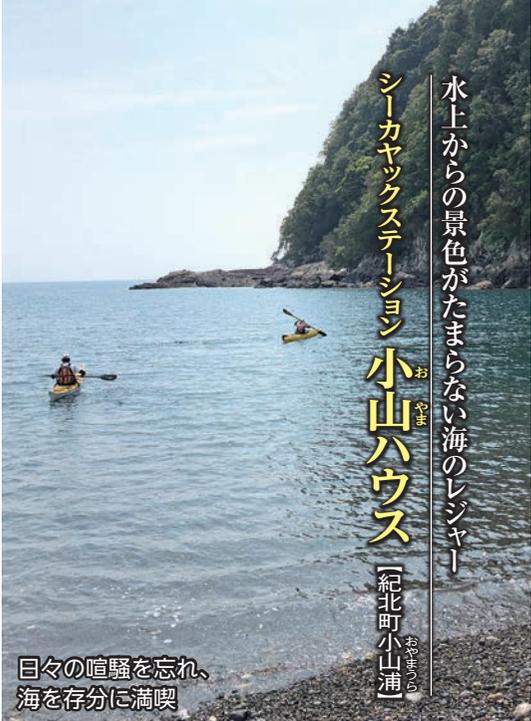
※印の写真は取材先から提供していただきました

(太田 覚さん)

水上からの景色がたまらない海のレジャー

シーカヤクステーション 小山ハウス

【紀北町小山浦】



日々の喧騒を忘れ、  
海を存分に満喫



海上での注意点や基本動作を教わる

リアス式海岸特有の洞窟や岩肌を落ちる滝、緑豊かな魚つき林などが近く、入り江が深いため、わずかに沖へ出れば、見えるのは山並み続く太古の風景だといえます。

森田さんは20歳から22歳のとき、二度に分けてシーカヤクで全長9000キロにおよぶ日本一周の旅を達成させ、平成16(2004)年に旅をコーディネートする「シーカヤクステーション 小山ハウス」を立ち上げました。シーカヤクの教室から離島キャンプツーリ

ング、熊野古道、また南紀串本方面の遠征など、紀伊半島を舞台にニーズや技量に合わせたプログラムを展開しています。

伊勢から尾鷲まで、小学生の自転車旅をサポートした話を伺いました。「荷坂峠を越えて紀北町に入った途端、東紀州の景色を目の前にして『すごい』って言葉が出ました」と森田さん。海を見て感動を味わった子どもたちは、宿泊施設での宿直のおじいさんとのふれあいも印象に残ったとのこと。「シーカヤクや自転車は移動手段の一つであって、そこで何を感じるかが旅の目的です」と、森田さんは紀伊半島での思い出づくりをささえています。



森田 渉さん

### お問い合わせ

シーカヤクステーション 小山ハウス  
TEL 080-4120-0480

(森田 渉さん)

海岸からシーカヤクに乗って海へ出ると、ちゃぶちゃぶと揺れる水音が心地よく響いています。インストラクターの森田 渉さんが、「パドルの先を目で追いかけて体を動かします」と漕ぎ方を教えてくれます。潮風を受けて海上を進むシーカヤクは、水面に目線があり、自然との一体感を味わえます。また水上から眺める景観も魅力の一つ。同じ場所でも季節が変われば、違った風景に出合えます。東紀州の海岸部は主要道路から離れていることが多く、

# 大紀町地域活性化協議会

【度会郡大紀町】



清々しい空気の中で山ヨガを体験

めてくれます。また自然豊かな場所でのヨガは、風やせせらぎの音に敏感になり、ストレス解消にも効果的です。清元さんは山ヨガのほか、「SUPヨガ」や「海ヨガ」といったプログラムも指導しています。

ヨガで気持ちよく体を動かした後は、ダイグランピングを体験。ウッドイアーなテーブルにソファアなどインテリアが揃ったテントで過ごし、アウトドア気分を満喫できます。

木工体験では、ヒノキやスギを鉋で削って箸づくりにチャレンジ。焚き火用の薪割りには、子どもや女性でも簡単に試せる道具が用意されています。

野趣あふれる地元素材を使った料理も、キャンプの醍醐味。焚き火の吊り鍋で煮込むのは、鮎のアヒージョです。天然の鮎が育つ大内山川は、全国の鮎のおいしさを競う「清流めぐり利き鮎会」で二年連続準グランプリを獲得。鮎は河川環境のバロメーターといわれ、大内山川には千年以上続けられる鮎占

澄んだ空気の緑の森で、背筋を伸ばして深呼吸。大内山川沿いの大滝峡キャンプ場で行う「山ヨガ」は、木漏れ日注ぐロケーションが人気の体験メニューです。ヨガ講師の清元尚美さんに合わせて、ゆっくりと体を動かして、ポーズをとります。ヨガの基本的な動

作から学べて、未経験者でも安心。会社などグループ旅行での利用も多く、初めてヨガを体験する男性も増えていくとのこと。「ヨガは自己整体ともいわれ、自分の体を見つめ直すいい機会ですよ」と清元さん。腹式呼吸やヨガのポーズが、体の柔軟性や調整能力を高

い神事も伝わっています。

爽やかな喉越しのハーブウォーターは、大紀町産のアップルミントやレモングラスで香り付け。ここではか味わえない本物の味覚を、手軽に堪能できます。

大紀町は海・山・川の自然をはじめ、世界遺産・熊野古道のツツラト峠など、豊富な資源に恵まれた地域。大滝峡キャンプ場など、町内に点在する体験施設をネットワーク化し、最適なプログラムをコーディネートしてくれるのが「大紀町地域活性化協議会」です。農



快適に過ごせるダイグランピング



鉋で削って、木の香漂う箸づくり



鮎をスペイン料理のアヒージョで



山添 みゆきさん(左から2番目)、清元 尚美さん(右から2番目)と大紀町地域活性化協議会の皆さん。

林漁業体験や自然体験、伝統文化歴史体験、食体験など、用意されているプログラムは60種類以上。リクエストに応じて、受け入れ先のスケジュールを調整し、行程づくりをアシストしています。「体験メニューは、農作物の収穫、人工林での間伐体験、養殖漁場でのエサやりや干物加工などさまざまです。問い合わせが増えているのは、美や健康、癒しをテーマにした『美容ツーリズム』。『錦向井ヶ浜遊パークトロピカルガーデン』ではSUPヨガの体験も定期的に開催しています」と、事務局長の山

添みゆきさん。夏の期間に行われる海上でのサンセットSUPヨガは、ハーブのお香スタンドや竹灯籠などのディスプレイもお手製で、抜群の雰囲気だそうです。田舎暮らしを体験できる民泊施設も充実し、地域住民との交流が外国人にも好評です。手つかずの自然と地域自慢の食材、人々のもてなしが大紀町の体験を豊かなものにしていきます。

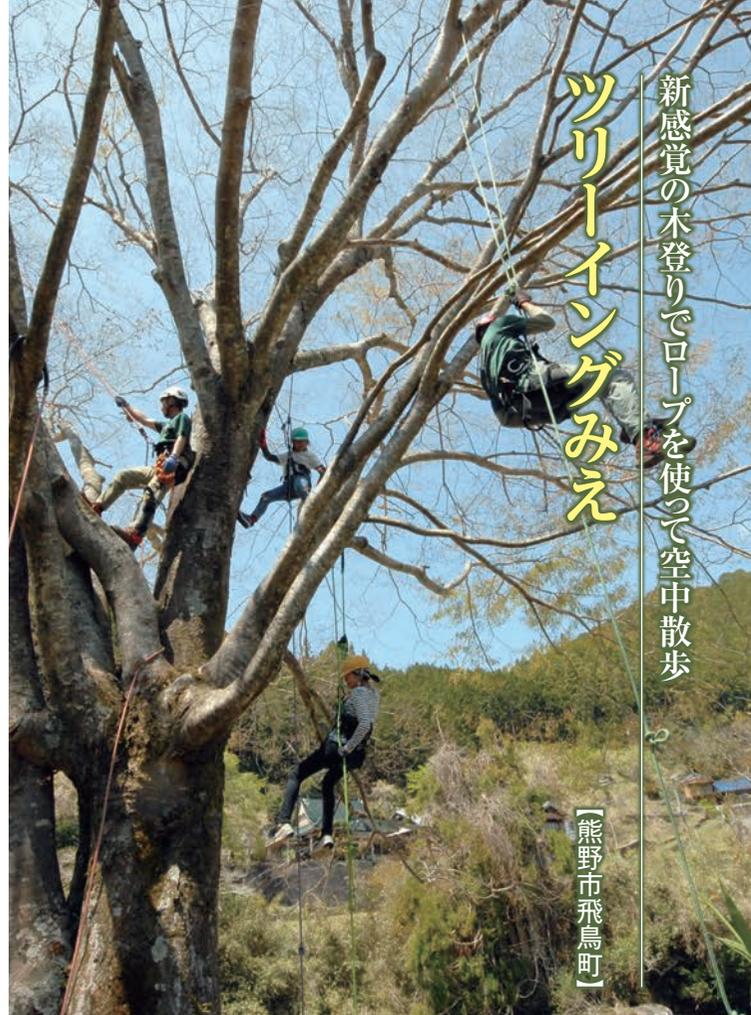
## お問い合わせ

大紀町地域活性化協議会  
TEL 0598-74-2277

新感覚の木登りでロープを使って空中散歩

# ツリーイングみえ

【熊野市飛鳥町】



周囲がよく見えるため、秋から春がベストシーズン

大きな木にロープを掛け、ハーネス（安全ベルト）とヘルメット、カラビナを装着して体験する「ツリーイング」は、近ごろ注目されている森のアクティビティです。ロープを頼りに地上から数メートル離れるだけで、鳥と同じ目線で景色を眺めることができる、新感覚

の木登りです。「基本的にどんな種類の木でもツリーイングはできますが、スギやヒノキなど針葉樹しんようじゅのように真つすぐ生えている木だと、あまり面白みがないですね。枝振りのいい、どっしりとした木がおすすめてです」と「ツリーイングみえ」のインストラクター・端無はなし

徹也さん。まずは安全な木かどうかを見極めて、ロープをセッティングします。熊野市の清流・大又川おおもたの川原にそびえるケヤキは、端無さんがこれまで何度も練習を重ねたという堂々たる大木です。太い根を張り、いくつもの枝を扇型に広げています。ロープを掛ける枝は二の腕の太さがあれば充分とのこと。またロープが樹木に直接触れることがないように、パイプの中を通して設置し、木に負担をかけないようにと考えられています。誰しもが安全に木登りを楽しめる秘訣は、インストラクターが施す特殊なロープワークです。「自分の体がロープを介して木とつながる感覚です。ロープワークを覚えてしまえば、こんなに素晴らしい体験ができます」と端無さん。子どもでも4歳児（身長100センチ以上）から体験可能で、登るコツさえつかめれば、力はいりません。

イギリスの造園業からはじまったとされるツリーイングは、アメリカなど

海外で盛んなアクティビティです。木と触れ合う楽しさを広めたいと、「ツリーイングみえ」では各地で仲間と交流し、体験会を開催しています。ワンダーフォーゲル部出身の50代の参加者に話を聞きました。「小さいときは危ないから木に登っては駄目と禁止されましたけど、もうそんなことも言われませんし」と、笑顔で軽々と枝をわたり、自在に遊んでいます。親子の体験会を開くと、大人の方が夢中になることも多いようです。

「ツリーイングみえ」が所属する特定

非営利活動法人「ツリーマスタークライミングアカデミー」では、上達したい人のために、三段階に分けて講習を行っています。まずはロープで登り下りするための基本動作を、次にまっすぐ登るテクニクを、最後に樹上で移動するための技術を身に付けます。大切なのは安全確認を怠らないこと。端無さんは、三年掛けて全ての技術を取得し、インストラクターの資格を取りました。その特殊な技術を活かして、里山整備のため支障木を伐採したり、災害ボランティアに向いたり各

地で活躍しています。

大樹に身も心もゆだね、空中にぶら下がったときの開放感は格別です。それに木の上から周囲の樹冠じゅかんを見下ろせば、爽快な気分が味わえます。また木の種類や硬さ、軟らかさなど、それぞれの特徴を知ることができて、体を使って楽しみながら、環境の学習にもなっています。

## お問い合わせ

ツリーイングみえ

（端無徹也さん）

TEL 090-8658-6601



狙いの枝にロープを着けた重りを投げる



ロープワークは日頃の生活にも役立つ技



ロープを操って、スルスルと身軽に登る



端無 徹也さん（右から2番目）とご家族の弘子さん、さらさちゃん、月詠（つきよみ）ちゃんと「ツリーイングみえ」の仲間

「忍者の森」で森林浴しながら、忍者修行体験

# 赤目四十八滝エコツアーデスク

〔名張市赤目町〕



綱を渡って敵の屋敷に侵入する「侵入術修行」を軽々とこなす、しゅうさん



「滝に打たれて自分を磨くECOツアー」※



「源流冒険ツアー」※



しゅうさん



「登り術修行」



「手裏剣術修行」

体験前に、カラフルな忍者装束の中から好きな色を選び、身に付けていくと、徐々に気分が高揚するのを感じます。この日、案内してくれたのは、案内人歴7年のしゅうさん。古刹「延寿院」の裏山へ進むと、最初に目に留まるのが「修行の館」。館内では、壁の隠し扉を使つての「逃避術修行」(ごんでん返し)などが体験でき、早速、忍者になった気分になります。しかし、屋外に出て、山裾に点在する各設備で修行体験を始めると、悪戦苦闘の連続。しゅうさんが

ません。板壁を登る「登り術修行」などでは、自分の手足が思い通りに動かないことを痛感。また、「手裏剣術修行」では、手裏剣が想像以上に重く、投げるのも一苦労でした。それでも、「上から振り落とすような感じで」などの確なアドバイスを受けると、次第的に当たるように。「吹き矢術修行」なども命中すると、達成感を味わえました。手裏剣や吹き矢が的に当たると、知らない同士でも拍手し合い、一体感が生まれるとのことでした。

この日は、新緑が目鮮やかで、ウグイスなどの野鳥の鳴き声も聞こえました。杉木立の間を吹き抜ける風が心地よく、満足感十分の90分でした。なお、水ぐもの浮きに乗る、水に濡れずに清流を渡る「水ぐもの術修行」(9月30日まで)など、季節限定の修行もありますが、基本的には通年体験可能で、年齢も4、5歳程度のお子さんから可能です。もし、天候に恵まれなくても、「忍者の館」内での「VR(バーチャルリアリティ)手裏剣修行」などもあり、十分楽しめます。また、忍者装束に身を包んだままで、「赤目四十八滝」への散策も可能。修行体験の後に、マイナスイオンを浴びながらの散策は、一層の爽快感を味わえることでしょう。



映像上の手裏剣をよけて身を守る「VR手裏剣修行」

## お問い合わせ

「赤目四十八滝エコツアーデスク」  
TEL 05995-641-2695

※印の写真は取材先から提供していただきました

# 伊勢おもてなしヘルパー

日本一のバリアフリー観光地をめざす伊勢市は、平成25年の式年遷宮の頃より神宮参拝のサポート要請が急増してきたことを機に、産官学関係6団体による「伊勢おもてなしヘルパー」を発足。高齢や障がいのある方々でも安心して参拝していただけるよう、車いすでの介助やお手伝いをしています。



「伊勢おもてなしヘルパー推進会議」の皆さん。  
野口 あゆみさん(中央)

**お問い合わせ**  
「伊勢おもてなしヘルパー推進会議 事務局」  
(NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアースセンター内)  
鳥羽市鳥羽1丁目2383-13  
鳥羽一番街1階  
TEL 0599-21-0550  
e-mail  
info@ise-omotenashi.jp

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は、「伊勢おもてなしヘルパー」を紹介します。どなたにも安心して伊勢神宮内宮参拝をしていただけるようお手伝いする有償ボランティア団体の事務局スタッフ、野口 あゆみさんにお話を伺いました。

## 伊勢おもてなしヘルパーとはどんなグループでしょうか。

野口：平成25(2013)年の式年遷宮の時、参拝のサポート依頼が急増したのを機に、今後も持続可能なサービスを提供できるよう伊勢市、伊勢市観光協会、伊勢商工会議所、皇學館大学、

伊勢おはらい町会議、伊勢志摩バリアフリーツアースセンターの産官学6団体がおもてなしヘルパー推進会議を立ち上げました。そして有償ボランティアとして活躍したいという方を広く募集、平成28(2016)年には座学2回、実地2回のヘルパー研修を実施しました。その全過程を終了した80名のうち主に約50名の方々がおもてなしヘルパーとして日々活躍しておられます。年代も10代から70代と幅広く伊勢を中心に県内はもちろん、県外からも参加されています。バリアフリー観光をおもてなしの一つとして、人と工夫によるおもてなしで伊勢の魅力アップさせるこ

とを目的としています。  
——おもてなしヘルパーは、どんなことをするのですか。  
野口：主に身体状況や高齢などにより伊勢神宮内宮の参拝が困難な方への「車いす介助」や「階段を上がるお手伝い」また「参道での介助や見守り」などを行って正宮への参拝の実現をお助けしています。玉砂利の参道では、走行しやすい電動車いすを利用していただきながら、傍らに寄り添い介助するほか、正宮前の石段では、4人1組で車いすごと持ち上げ、正宮まで上ります。また身体的な介助だけでなく、神宮内の見どころの説明や参拝の仕方など、ヘルパーとのおしゃべりも楽しい旅の思い

出の一つです。また来たいと思っただけできるよう、温かいおもてなしを心がけています。

## 利用された反響はどうでしょうか。

野口：それはもう、熱い感謝の思いが書かれたお手紙やメールをたくさんいただきます。やはり正宮まで上がったの参拝は格別なもの、半ば諦めていたその参拝ができたという満足感、そして一緒に上れたことを喜ばれるご家族、その様子を見てヘルパーさんたち

の胸にも感動がこみ上げ、ますますやりがいを感じられているようです。  
——ありがとうございます。

お話を伺った野口さんはじめ事務局スタッフが、お客さまとおもてなしヘルパー間の連絡やコーディネートをする窓口になっています。お客さまから今まで感謝の手紙をたくさんいただいたうえ、有償のサービスにも関わらずトラブルやお叱りの言葉は一度もないとは素晴らしいことですね。

を伺っている  
と皆さん伊勢

インタビュー  
……末永薫



玉砂利の参道を電動車いすで無理なく進む※



4人で力を合わせ正宮(しょうぐう)に上がる※



全国から寄せられた熱いお礼の手紙※



おもてなしヘルパーに認定された皆さん(平成28年 認定式)※

※印の写真は取材先から提供していただきました



芭蕉ゆかりの古刹 新大仏寺と  
平松宿めぐり

伊賀市

子延、平松、富永

津城下から長野峠を経て上野城下へといたる道筋は、伊賀街道と呼ばれます。俳聖・松尾芭蕉も越えたという長野峠から街道沿いを西へ進めば、今も宿場町の面影を残す平松宿や、古刹・新大仏寺などがあり、訪問者に昔話を語りかけてくれます。また、近くには散策の疲れを癒す複合温泉施設「伊賀の国 大山田温泉」さるびの」もあります。

今回は、伊賀市東部(旧大山田村)を横断する伊賀街道周辺をめぐります。  
取材・文：中村真由美



「伊賀の国 大山田温泉 さるびの」

「伊賀の国 大山田温泉 さるびの」

今回の散策の起点は、「伊賀の国 大山田温泉 さるびの」です。山あいに点在する各施設では、ゆっくり温泉につかったり、パンやこんにやくを手作りしたり、キャンプやゲートボールを楽しんだり、キャンプやゲートボールを楽しんだりと、充実した時間を過ごせます。車を利用する場合、名阪国道中瀬ICから約20分ですが、公共交通機関の場合は、「伊賀鉄道」上野市(忍者市)駅から三重交通バスに乗車すると、45分ほ



「子延橋」

どでバス停「大山田温泉」に到着。本数が少ないため、事前に時刻表を確認しておくとういでしょう。

伊賀街道の宿場町

「まずは、平松宿へ向かいます」との案内で、南へ進みます。田園風景を眺めながら歩くと、やがて目の前に小さな石橋が現れました。服部川に架かる「子延橋」です。橋を渡ると光景は一変し、道の両側に家並みが続きます。ここが平松宿で、むしろ窓や連子格子



平松宿の家並み

などに風情を感じます。伊賀街道を整備したのは、慶長13(1608)年に伊勢・伊賀二国の大名となった藤堂高虎です。官道として多くの人々や物資が行き交った街道沿いは、いくつかの宿場町が設置されました。平松宿もその一つですが、実は当初は違う場所であり、上阿波宿と呼ばれていました。しかし、元禄7(1694)年から3年連続で大火に見舞われたため、同10(1697)年に移転したのです。



今回の案内人は「大山田観光ボランティアガイド会」会長の猪野(いの)昭八さん(写真右)と、「阿波住民自治協議会」人権教育文化部会の部会長を務める橋本隆さん(写真左)。お二人からは、郷土への熱い想いが伝わりました。





芭蕉句碑



木造如来坐像(国指定重要文化財)



石造基壇



「猿蓑塚」

左側の三角形の句碑は天明8(1788)年建立

貞享5(1688)年のこと。石の台座の上に仏頭だけが安置された様子を目にして嘆き悲しみ、「丈六に 陽炎高し石の上の句を詠みました。お話の句碑は、安永9(1780)年に建立されたもので、どっしりとした自然石に、句などが刻まれていました。

「猿蓑塚」へ足を延ばす  
新大仏寺に別れを告げて、帰途につきます。その途中で「阿波地区市民センター」に隣接する体育館が目にとまりました。旧大山田東小学校の木造体育館で、今でも地域の人々に親しまれていると伺いました。

問 大山田観光ボランティアガイド会  
「大山田郷土資料館」月・火曜日休館  
TEL 0595-48-0303



高さ約2メートルの道標

平松宿へ宿場の機能が移転した後、上阿波宿は「元町」と呼ばれたことなどを教わりながら歩を進めると、案内板と、自然石の道標が目にとまりました。前者には、平松宿の沿革に加えて屋並図などが記され、町の全体像がわかります。後者には「右大佛」などの文字が刻まれ、新大仏寺への近道を教えてくれています。

「大山田郷土資料館」から  
新大仏寺へ  
平松宿から歩くこと数分、周囲を山に囲まれた場所にたたずむのが新大仏寺。「大山田郷土資料館」はそのすぐ近くにありました。お話の「いたや」の瓦は、2階で見ることができました。七福神に加えて、ネズミをかたどった瓦などもあり、解体前の様子がある程度、想像できました。



「大山田郷土資料館」内部



旧旅籠「いたや」の瓦の一部



新大仏寺の大仏殿

# 三重 の シンボル

紀宝町

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。



町の木  
ウバメガシ



町の花  
カンラン / スイセン



■ お問い合わせ ■

紀宝町役場 企画調整課 TEL 0735-33-0334

\*市・町名の50音順に紹介しています。

\*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 「ツリーイングみえ」(熊野市飛鳥町)

百五銀行 丸之内本部棟内の「歴史資料館」で、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧いただけます。  
☎ 経営企画部広報ESG課 TEL 059-223-2326(要予約)